

平成 30 年度（公財）兵庫丹波の森協会業務

平成 30 年度
丹波の森研究所活動報告

報 告 書

平成 31 年 3 月

（公財）兵庫丹波の森協会 丹波の森研究所

目 次

はじめに

1 平成 30 年度調査研究・活動報告

- 1) 美しい村づくり支援事業……………2
 - ①たんばオープンガーデン交流促進
 - ②ミニガーデン・ワークショップ（報告書 1）
 - ③地球育ミュージアム研究会（報告書 2）

- 2) 丹波の森研究所の充実……………3
 - ①地域再生プロジェクトチーム会議
 - ②「丹波の森づくりのこれから」を考えるワークショップ（報告書 3）
 - ③恐竜化石フィールドミュージアム推進総合プロデューサー事業（報告書 4）
 - ④篠山市小規模自治会検討委員会アドバイザー
 - ⑤丹波市森林づくり協議会委員

- 3) 地域づくり支援事業……………4
 - ①アドバイザー派遣重点地区の支援
 - ②かいばら雛めぐり事業のコーディネート業務
 - ・「かいばら雛めぐり実行委員会」（報告書 5-1 参照）
 - ・たんば雛めぐり交流会（報告書 5-2 参照）
 - ・丹波並木道中央公園ビオトープ整備計画資料作成業務（報告書 6 参照）
 - ③丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務（報告書 7 参照）
 - ④交流実践リーダー育成事業（報告書 8 参照）
 - ⑤多世代による地域運営モデル事業（報告書 9 参照）

【参照】

報告書 1～9

はじめに

丹波の森研究所は、「丹波の森構想」（人・自然・文化・産業の調和した丹波地域づくり）を推進するシンクタンクや支援組織をめざして、平成8年（1996年）、財団法人丹波の森協会（現、公益財団法人兵庫丹波の森協会）によって設けられました。

中瀬勲所長を中心に、地域づくりに関する諸分野に関する調査研究を行ってきましたが、平成28年度をもって退任され、平成29年度は、関西学院大学の角野幸博先生を新所長に迎え、新たなスタートとなりました。

平成30年度は「丹波の森構想30周年」であり、また県政150周年となる節目の年度でした。

近年、少子高齢社会の到来とともに、将来人口予測が出され、社会情勢の大きな転換期を迎えています。そうした変化に対応すべき新たな丹波の森構想が模索されているところであります。

今後丹波の森研究所としては、こうした社会的要請に応えていくよう求められています。その意味においても、丹波の森研究所としても新たな展開を図るべきところにあります。

丹波の森研究所の主たる業務は、地域づくりにおける相談、アドバイス、情報提供、学習会などを通じた地域づくりの支援のほか、丹波の森づくりに関する調査研究、講演や報告会などを通じた啓発・普及、行政の施策・事業に関するアドバイザー協力を行うほか、「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会」の調査企画部分を担っています。

事業実施に当たっては、丹波の森研究所の登録研究員11名で実施しています。

■丹波の森研究所 所員（平成31年3月現在）

研究所所長	角野 幸博（丹波の森公苑長兼務）
研究所次長	山中 直喜（丹波の森協会事務局長）
主任研究員	門上 保雄
登録研究員	上岡 典子
	横山 宜致
	塩山 沙弥香
	片平 深雪
	小橋 昭彦
	出町 慎
	谷垣 友里
	門上 幸子
	垣内 敬造
宮川 五十雄	

1 平成 30 年度調査研究・活動報告

丹波の森研究所は、丹波地域の地域づくり（活力と魅力ある地域づくり）を自主研究・事業の中心テーマとして、各地域の支援を実施してきました。

平成 30 年度の主な調査研究および活動は下記の通りです。

1) 美しい村づくり活動支援事業

①たんばオープンガーデン交流促進

- ・「たんばオープンガーデン交流促進」です。たんばオープンガーデンは森公苑を拠点とした「丹波の森花クラブ」と県民局土木事務所、森協会、森研究所が中心となって立上げ、現在まで篠山市、丹波市の花づくり愛好家による市民レベルの活動を継続しています。
- ・一昨年、ヒアリング調査を行ったところ、参加者の高齢化、新規参加者が少ない、参加者同士の交流が欲しい、などの意見がありました。
- ・それを受け、森公苑もオープンガーデンに参加することで、広報活動をするとともに、オープンガーデン事務局とのネットワークを強め、地域や花づくり愛好家への広がりを目指しているところです。また、森公苑が参加することで、個人の参加だけでなく、公的施設の参加を促す効果を想定しています。

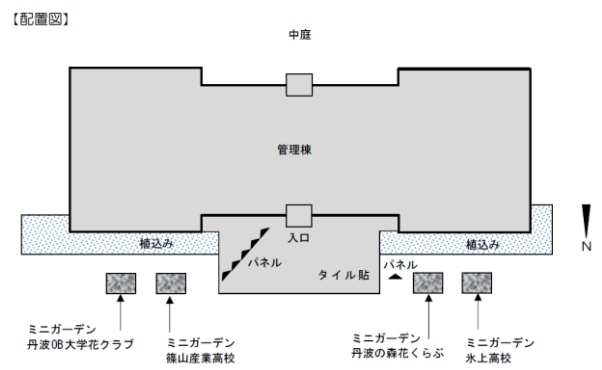


オープンガーデン制作風景

②ミニガーデン・ワークショップ（報告書 1 参照）

- ・丹波の森宣言の「丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくり」の取り組みの一環であり、県民局土木事務所と連携して実施している事業です。
- ・「ミニガーデン・ワークショップ」は、30 年度に、丹波の森づくり 30 周年ならびに県政 150 周年の記念事業の一環として開催しました。ミニガーデン制作参加者からは好評で、参加枠も増やしてほしいとの意見があり、31 年度は参加枠を増やす方向で実施する予定です。

丹波の森研究所ミニガーデン制作募集チラシ



ミニガーデン制作風景

③地球育ミュージアム研究会（報告書 2 参照）

- ・三たん連携の「地球育ミュージアム研究会」は、三たん地域（丹波、丹後、但馬）に立地する環境学習拠点施設が連携したイベントの実施や、巡回パネル展を行っています。研究会はその企画調整を中心に、今後の展開等についての会議を年 2 回程度開催しています。

（学習拠点施設：丹波の森公苑、並木道中央公園、コウノトリ文化館、琴引き浜鳴き砂文化館、丹後海と星が見える公園、山陰ジオパーク館の 6 館）

- ・地球育ミュージアム研究会（H30.9.13）宮津竹の学校（都市景観大賞受賞）の取り組み紹介、今後の活動について



琴引浜鳴き砂文化館

- ・研究会での意見で、前回行ったパネル巡回展は、意義があったのではないかと意見があった。各館の紹介パネルはかなり破損してきているので、ビジュアルを中心にした、写真展や写真紹介パネルによる巡回展を検討する。
- ・また中期的には、鳴き砂の音を出すようなタッチ型展示は人気があり、サウンドスケープ協会へも曾和代表から打診を頂きながら、“音でめぐる三たん”など、サウンドスケープを切り口に、各館・各地域を体験展示するあり方を検討する。

2) 丹波の森研究所の充実

①地域再生プロジェクトチーム会議（県民局連携）

- ・県民局の地域再生大作戦の事業解説とともに、各回テーマをもって、両市の地域づくり担当者および丹波の森研究所の研究者による意見交換を行っています。
- ・2回開催（6月12日、3月12日）

②「丹波の森づくりのこれから」を考えるワークショップ（報告書 3 参照）

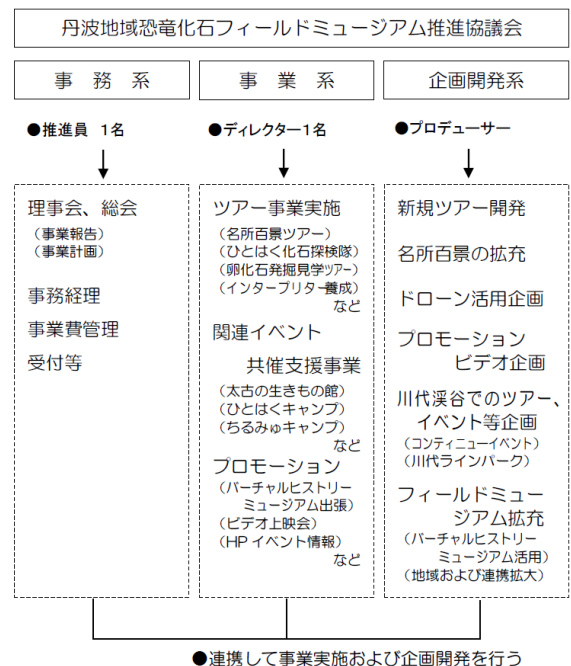
- ・丹波の森づくり30周年記念シンポジウムに向け

て、研究所として「丹波の森づくりのこれから」として、提言をまとめた。

③恐竜化石フィールドミュージアム推進総合プロデューサー事業（報告書 4 参照）

- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進事業の一環として、事業の企画調整を森研究所の研究者が中心となって実施しています。
- ・31 年度のフィールドミュージアム推進事業は、主にツアーの企画・実施と PR 事業、川代トンネル開通に伴う旧道区間の公園化整備などが中心となります。
- ・そのため、個別ツアーの企画・地元対応・事業者調整・広報などを担当する事業ディレクター、および新規ツアーの企画や川代トンネルの旧道区間の整備についての提言や利活用ソフトプランの立案などを担当する総合プロデューサーを設置し、フィールドミュージアム事業の推進を図りました。

【推進体制】



④篠山市小規模自治会検討委員会アドバイザー

- ・篠山市の小規模自治会検討委員会のアドバイザーとして研究者が出席しました。
- ・年 3 回開催

⑤丹波市森林づくり協議会委員

- ・丹波市が進める「林業普及推進員養成講座」の講座内容について検討しました。
- ・年 9 回開催

3) 地域づくり支援事業

①アドバイザー派遣重点地区の支援

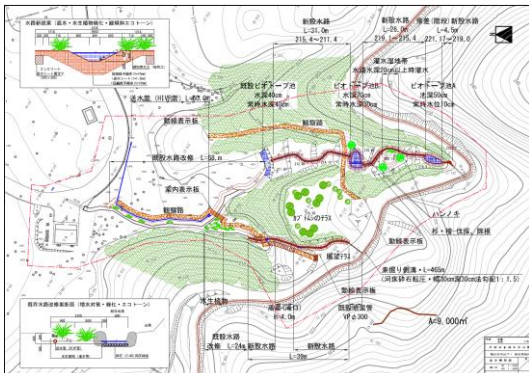
- ・地域づくり重点地区への支援としてのアドバイザー派遣は、主に森研究所の研究員が地域づくり支援を行います。最近では、集落だけでなく、高校や小学校からも、現況把握や問題整理など、ワークショップによる課題解決のための支援要望があり、若い世代の地域づくりの関心を高める取り組みとしても考えています。
- ・篠山市：鳳鳴高校地域探究活動の支援
- ・丹波市：遠阪地区企業の森づくりの支援
新井小学校学校林再生プロジェクト支援

② かいばら雛めぐり事業のコーディネート業務

- ・「かいばら雛めぐり実行委員会」(報告書 5-1 参照)
かいばら雛めぐり実行委員会のコーディネーターとして、雛まつりを地域活性化にも役立てようと企画・提案をしています。
- ・たんば雛めぐり交流会 (報告書 5-2 参照)
篠山市、丹波市、亀岡市の3市連携の雛まつり実行委員会が連携した「たんば雛めぐり交流会」が発足し、本会のコーディネーターとして研究員が支援しています。

③丹波並木道中央公園ビオトープ整備計画資料作成業務 (報告書 6 参照)

- ・公園開園前平成 18 年に整備されたビオトープ池は、現在は小規模な水溜まり状態となっており、環境学習の場としてほか、散策等の日常利用においても、魅力的な水辺空間となり得ていないのが現状です。
- ・そこで、ビオトープ池やせせらぎ水路、棚田跡等の、公園内の数少ない水辺空間としてのポテンシャルを活かし、生物多様性の向上および小学校等における環境学習や散策などの魅力向上を図るため、その再生を図るものです。



丹波並木道中央公園ビオトープ整備計画案

④丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務 (報告書 7 参照)

- ・丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的としています。
- ・30年度は6地区が指定され、各地区には「里山づくりアドバイザー」が派遣され、現地調査及び活動団体へのヒアリングとともに、次年度に樹立する里山整備計画を策定するためのワークショップを開催し、その内容を取りまとめます。

④交流実践リーダー育成モデル事業(報告書 8 参照)

- ・本事業は丹波県民局の委託事業で、丹波地域の住民の主体的・計画的・継続的な「都市との交流」等を展開できるよう、地区等において地域住民の育成・指導を行う地域リーダーを育成する「交流実践リーダー育成モデル事業」を実施する。
- ・3年目となる本年度は、より実践的で地域特性を活かした取組につなげていくことを目標とした。実践地区 1 地区に絞り、地区の活動実践者や集落アドバイザーと聴講生との意見交換や現地での体験学習を中心に学習濃度を高めることとした。

⑤多世代による地域運営モデル事業(報告書 9 参照)

- ・本事業は、地域課題の共有やふるさと意識の醸成を図るため、子供から子育て世代や親世代など、多世代で継続して取り組める事業(地域運営プラン)を考え、試行するものです。
- ・地域ワークショップ(考える会、検討会など)の開催と地域づくりアドバイザー派遣
- ・アドバイザーとの意見交換を経て、事業計画を作成(地域運営プランの作成)
- ・事業計画に基づく試行では、継続事業としての課題や解決策を検討する。
- ・対象は自治協やまち協単位(1集落での取組も可能)としています。